

マハゼの確認

■マハゼの生息の確認

今回の調査ではマハゼの生息を確認した。場所は導流堤に設置された水門の潟湖に面した側近辺である。震災前の蒲生干潟はハゼ釣りの名所として知られていたが、堤防工事の影響もあってハゼ釣りをしている人を見かけることは少ない。また、なかなか採集することもできず、今年の調査で確認したのは今回が初めてである。

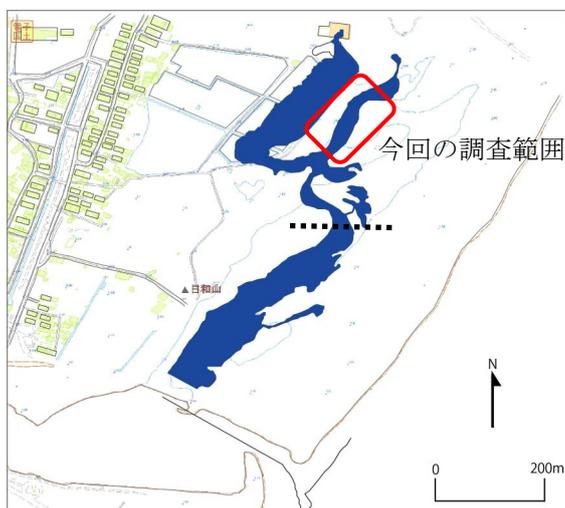
採集したのではなく、水中にいる様子を観察した。離れた位置からの撮影なので、鮮明な画像を得ることはできなかったが(Fig.1)，同じ場所で複数以上の生息を確認した。



(Fig.1 マハゼ)

■ホソウミニナの分布域

ホソウミニナの分布を確認するため、干潟の奥（北部）の様子を確認した(Fig.2)。泥地が広がる北部には多数のホソウミニナを確認できた(Fig.3)。表面のデトリタス（有機物）を餌とするホソウミニナにとって、砂地よりも泥地の方がより多くの餌を得られるのであろう。Fig.2の点線付近より北側に多くのホソウミニナが見られるが、点線付近を境に北側には泥地が、南側には砂地が広がっている。



(Fig.2 調査地点)



(Fig.3 白く見えるのは全てホソウミニナ)

(佐藤 賢治)